

3 口腔腫瘍切除後インプラント治療による機能再建

星名 秀行・山田 一穂・勝見 祐二
 小川 信・魚島 勝美・永田 昌毅*
 池田 順行*・嵐山 貴徳*・高木 律男*
 新潟大学医歯学総合病院インプラント治療部
 新潟大学大学院医歯学総合研究科
 顎顔面口腔外科学分野*

口腔腫瘍切除後の再建顎骨に対しインプラント治療による機能再建を施行したので検討し報告する。対象症例は悪性腫瘍7例, 良性腫瘍7例の計14例, 男性5名, 女性9名, 年齢は17歳~75歳である。診断は下顎歯肉扁平上皮癌が多く, 良性腫瘍ではエナメル上皮腫が多かった。切除範囲は下顎辺縁切除4例, 下顎区域切除以上10例であった。放射線療法は3例に行った。再建は1次再建として金属プレートと皮弁が多く, 2次再建として悪性腫瘍では腓骨皮弁が多く, 良性腫瘍では腸骨, 腓骨, 骨延長が施行された。口蓋粘膜や皮膚移植も行われていた。インプラントはStraumannが8例, Branemarkが6例で, 本数は1本から4本, 平均2.8本が埋入された。上部構造は義歯8例, プリッジ6例で, インプラントの残存率は97.4%であった。咀嚼機能は咬度表(山本), 咀嚼状態(山下)で評価し, 良好13例, ほぼ良好1例と患者の満足が得られた。

4 30歳未満の舌扁平上皮癌の臨床的検討

新垣 晋・金丸 祥平・三上 俊彦
 船山 昭典・新美 奏恵・小田 陽平
 菅井登志子・芳澤 享子・斎藤 力
 永田 昌毅*・星名 秀行*・高木 律男*
 林 孝文**

新潟大学大学院医歯学総合研究科
 顎顔面再建学講座組織再建口腔外科学分野
 同 口腔健康科学講座顎顔面口腔外科学分野*
 同 顎顔面再建学講座顎顔面放射線学分野**

舌癌は50-70歳代の中老年者に多く発生するが, 近年若年者も増加傾向にある。今回は, 30歳未満の舌扁平上皮癌12名を対象に臨床および病理組織学的所見, 治療法, 転帰について検討した。検討項目は, 喫煙, 飲酒, 発育様式, 分化度, 治療法, 頸部転移の有無, 転帰である。

喫煙歴は3名, 飲酒歴は4名で, 2親等以内のがん罹患者は4名であった。発育様式では, 表在および潰瘍硬結型が2名, 外向および内向型が4名であった。T分類では, T1 4名, T2 6名, T4が2名, 分化度ではG1 7名, G2が5名であった。初回治療法では, 外科単独が10名, 放射線化学併用療法と外科放射線化学併用療法がそれぞれ1名であった。頸部転移は後発転移4名を含めた5名であった。若年者舌癌の治療法はそれぞれの利点, 欠点を十分に説明し選択すべきで, 特に放射線治療の晩発性障害や化学療法の性腺障害について配慮する必要がある。5年生存率は92%と良好だった。

5 喉頭声門癌再発症例に対してSCL-CHEPを行った2例

岡部 隆一・佐藤雄一郎・大島 伸介

県立がんセンター新潟病院耳鼻咽喉科

SCL-CHEP (Supracricoid laryngectomy with cricothyoid epiglottomy) は喉頭声門癌に対する機能温存手術である。一般的なメリットは音声